

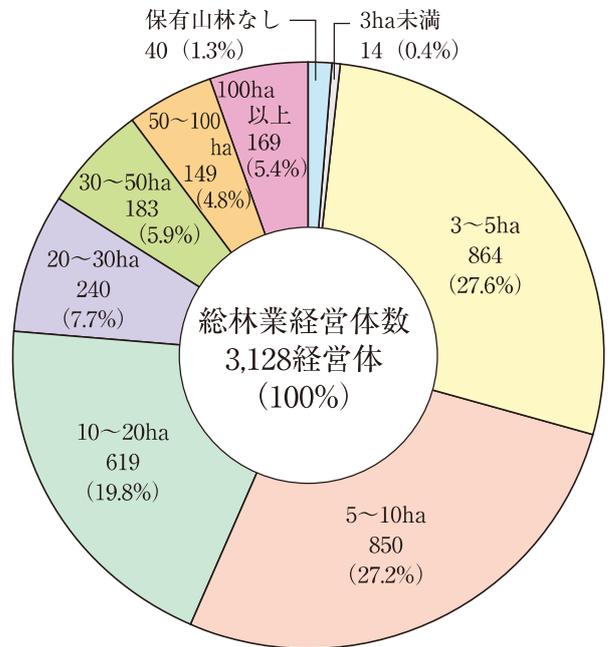
2 林業部門

1) 林業を担う経営体（林業経営体）

本県の林業経営体数は、3,128経営体となっており、保有山林規模別では、10ha以下の経営体が総数の57%を占め、規模の小さな経営体が多い。

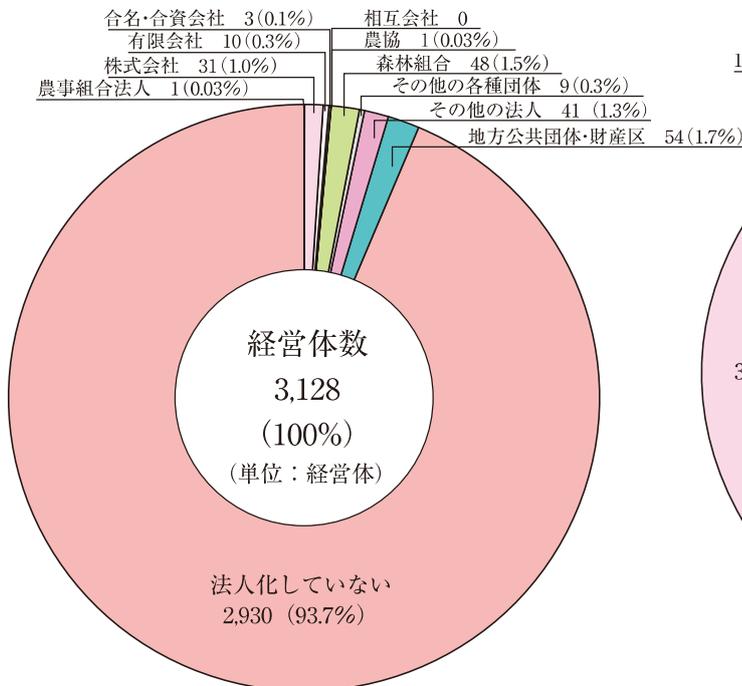
また、組織形態別では、法人化していない経営体が94%を占めている。家族経営における林業従事日数150日以上に従事者は6%と少ない。

保有山林規模別林業経営体数



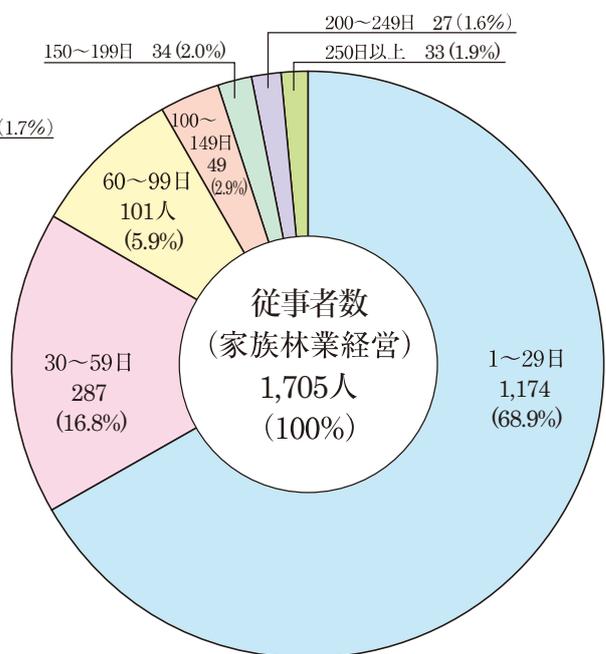
(2005年農林業センサス)

組織形態別経営体数（平17）



(2005年農林業センサス)

日数別従事者数（平17）



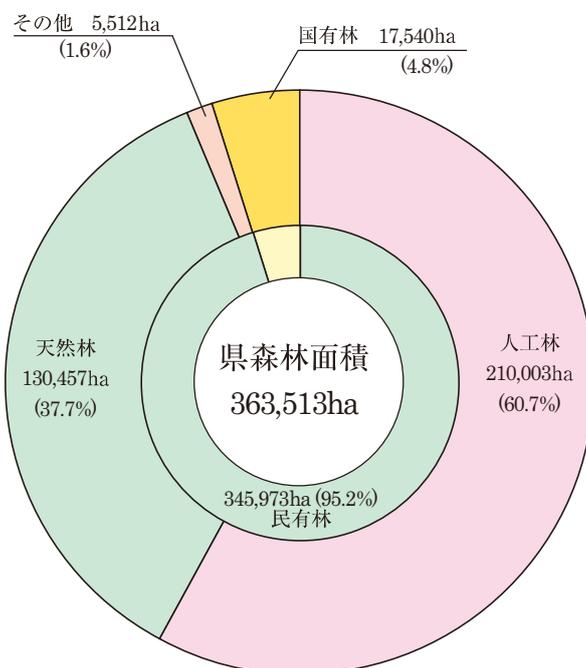
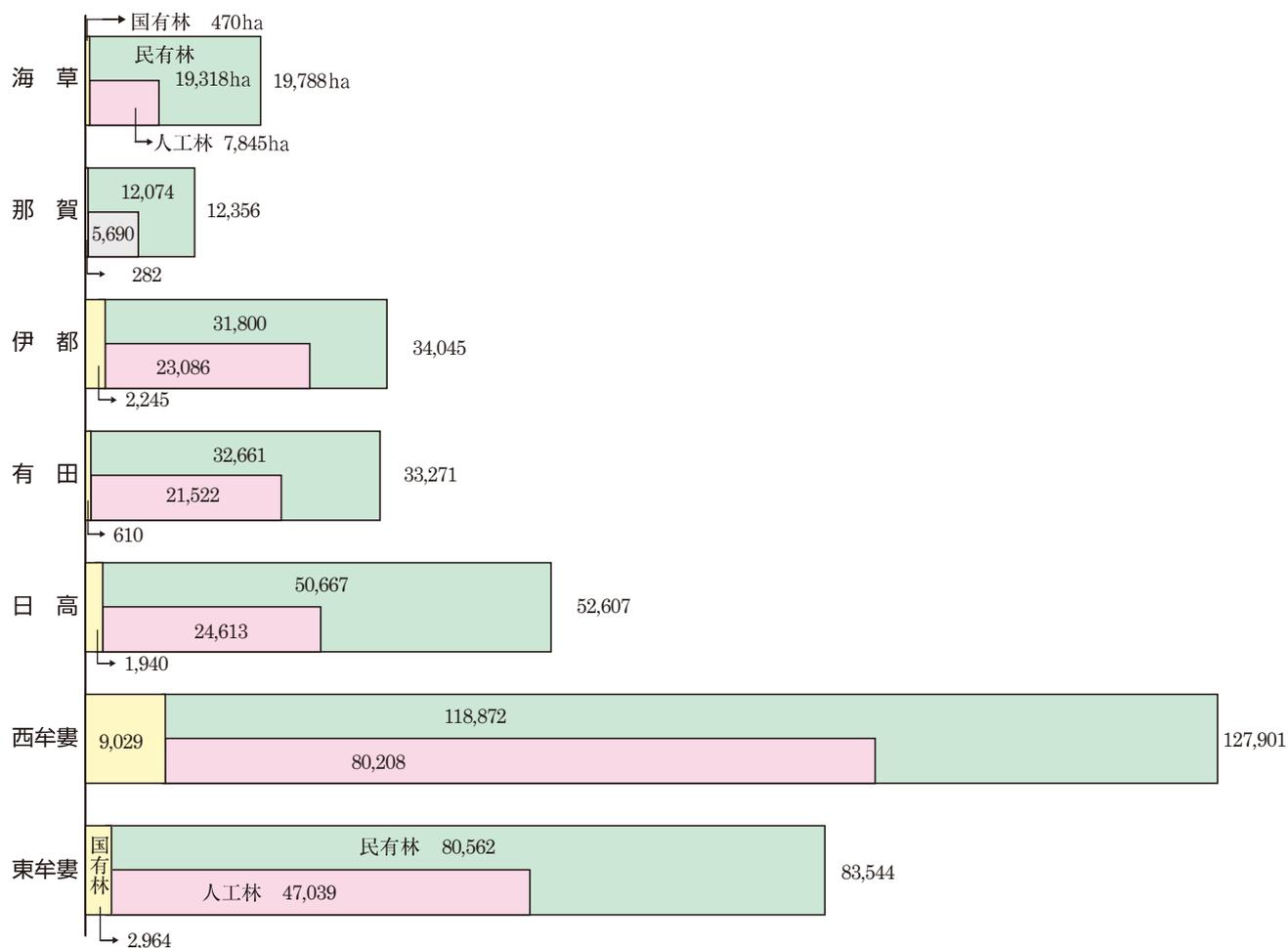
(2005年農林業センサス)

〔平17〕	林業経営体数					
	全国	和歌山県		1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア (%)	県名	県名
林業経営体数	200,224	3,128	29	1.6	北海道	岩手 岐阜

2) 森林資源・林業生産基盤

郡別・森林面積（平21.4.1現在）

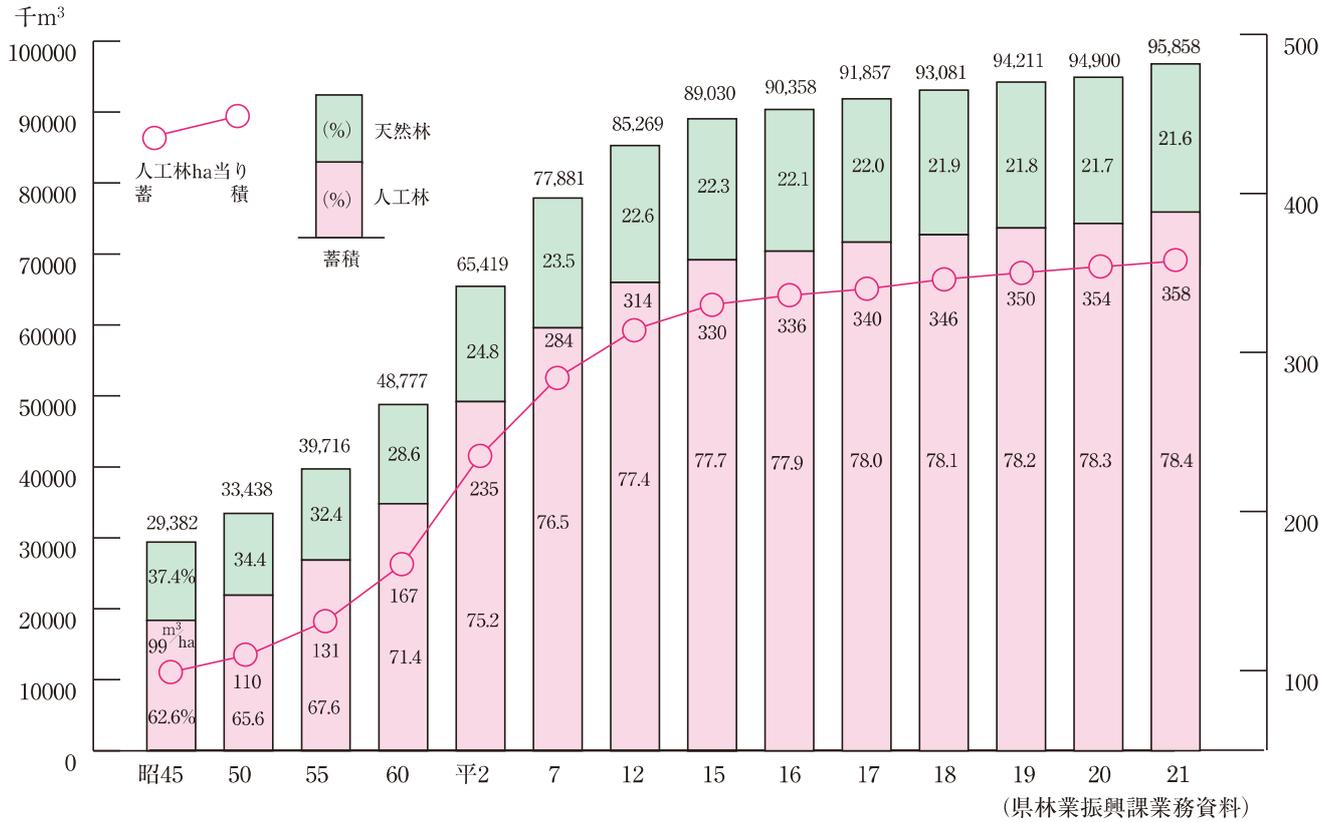
県の森林面積363,513haのうち、国有林は4.8%、民有林は95.2%で、民有林のうち、人工林は60.8%である。



(県林業振興課業務資料)

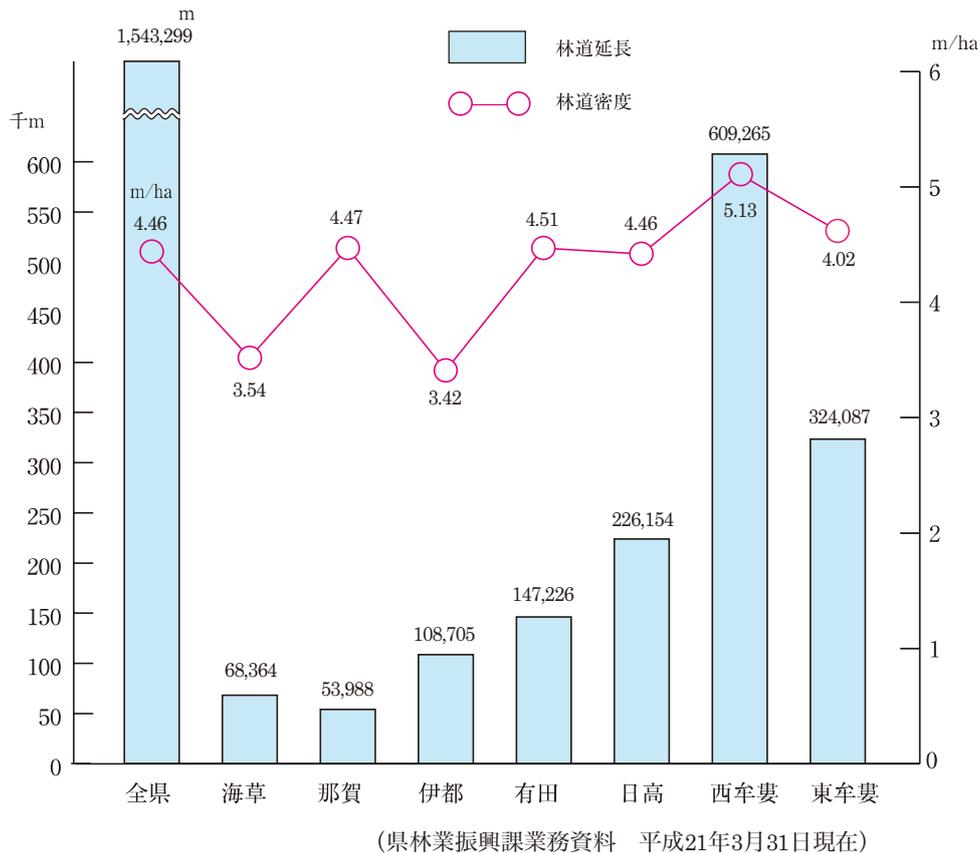
森林資源（私有林蓄積）の推移（地域森林計画対象森林：345,411ha）

戦後植林された森林資源が成熟しつつある。



郡別私有林林道延長及び林道密度（平21.3.31現在）

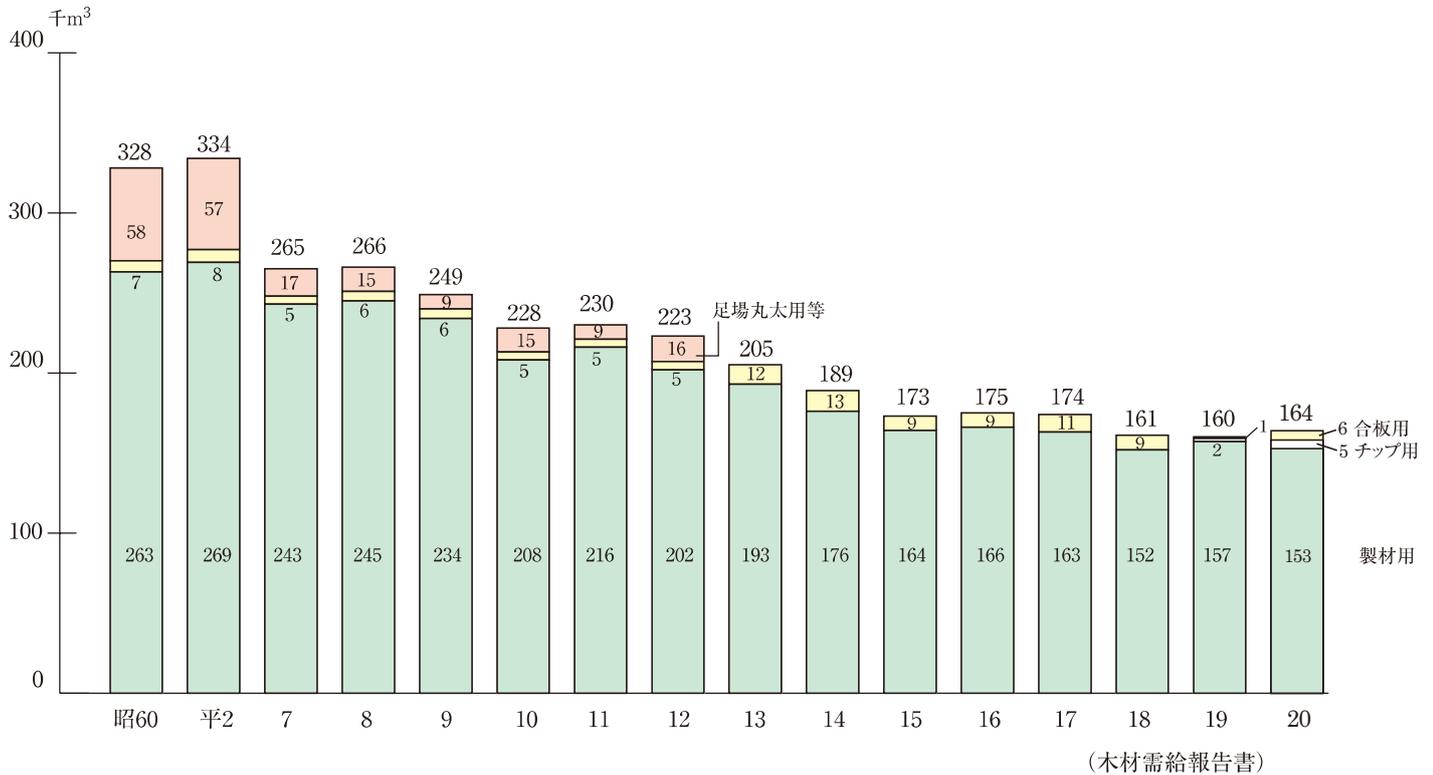
生産コストの縮減をはかるため、林道密度を高める必要がある。



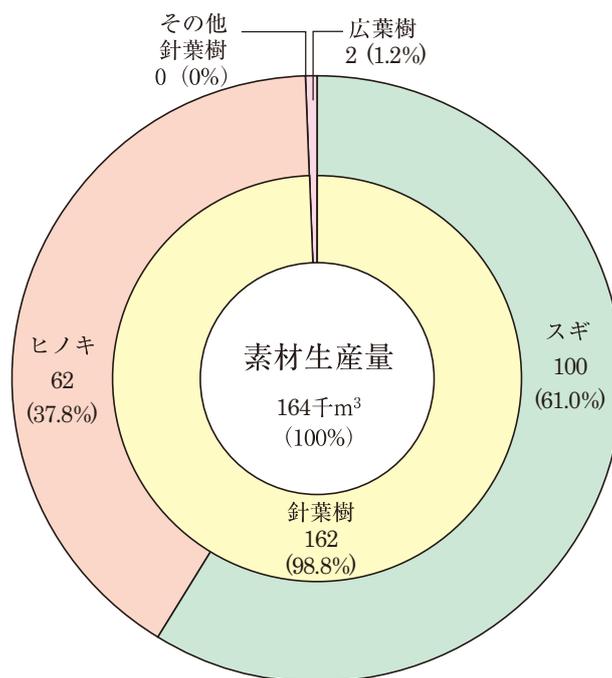
3) 林業生産

近年の木材生産活動は木材価格の低迷等から停滞している。
 一方、最近では輸入製品価格の高騰などから、国産材の需要が高まりつつある。

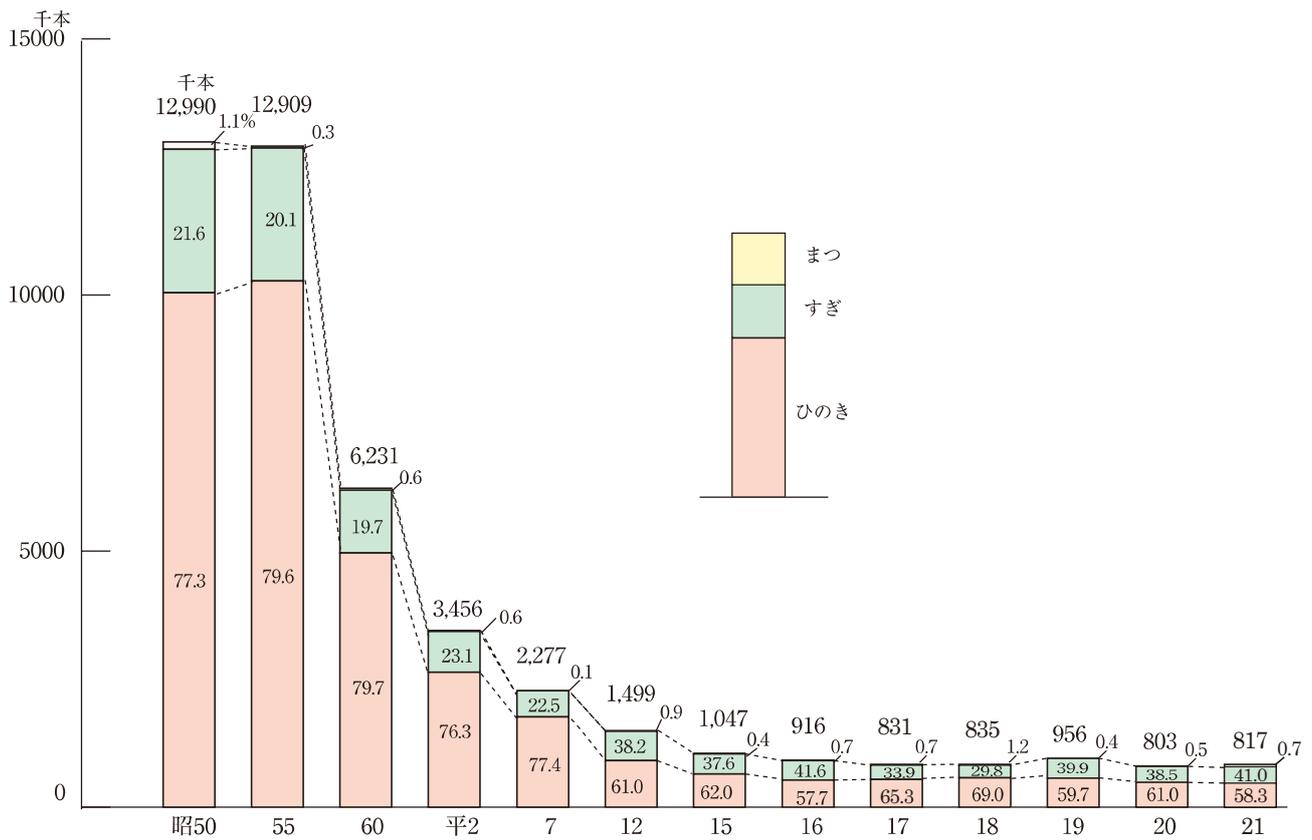
用途別素材生産量の推移



樹種別素材生産量 (平20)



山用種苗生産本数の推移

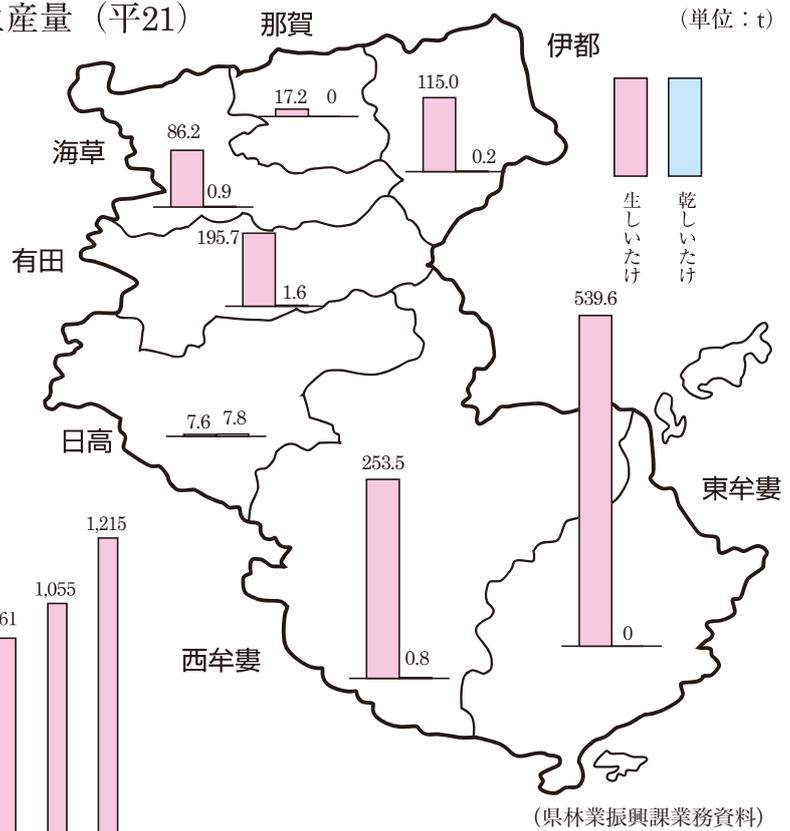


(県森林整備課業務資料)

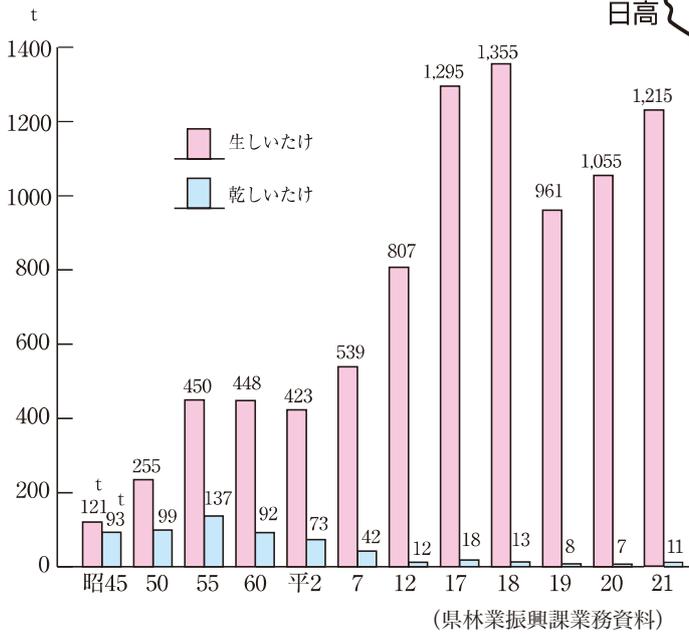
素材生産量

[平20]		全国	和歌山県		1位	2位	3位	
		実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
素材生産量	合計(千m ³)	17,709	164	28	0.9	北海道	宮崎	岩手
	針葉樹	14,975	162	25	1.1	北海道	宮崎	岩手
	すぎ	8,755	100	25	1.1	宮崎	大分	秋田
	ひのき	1,886	62	12	3.3	愛媛	岡山	熊本
	広葉樹	2,734	2	43	0.1	北海道	岩手	広島

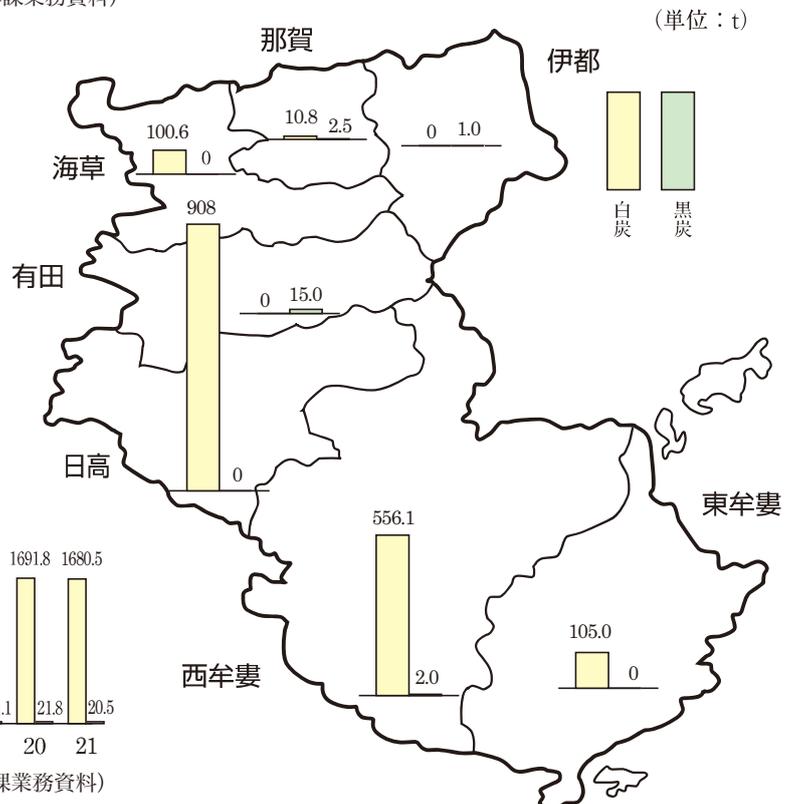
郡別・しいたけ生産量（平21）



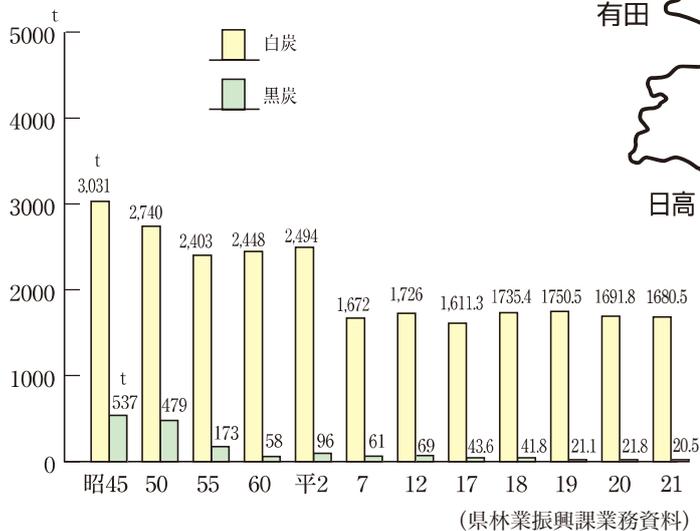
しいたけ生産量の推移



郡別・木炭生産量（平21）

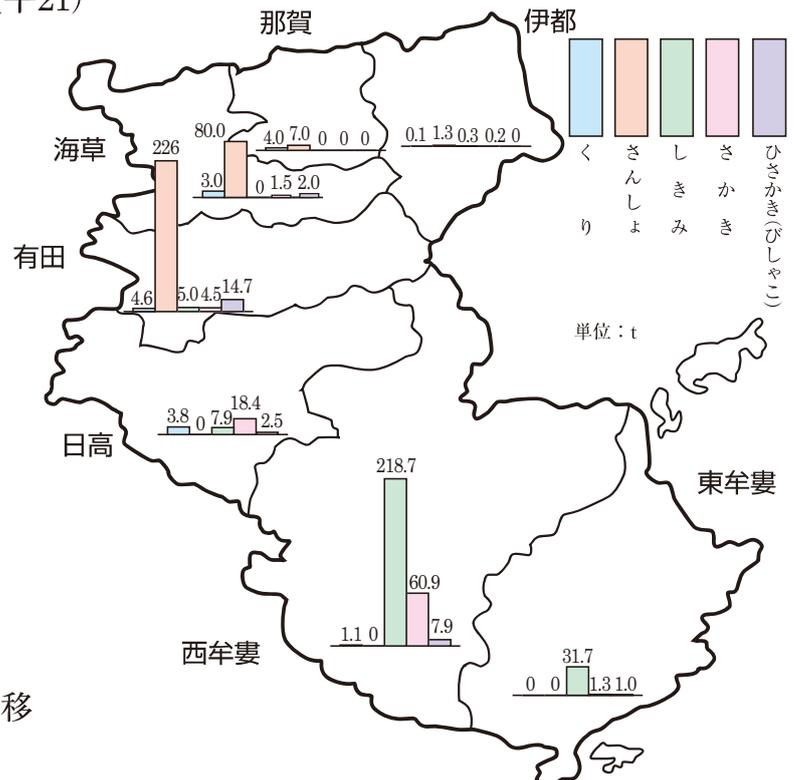


木炭生産量の推移

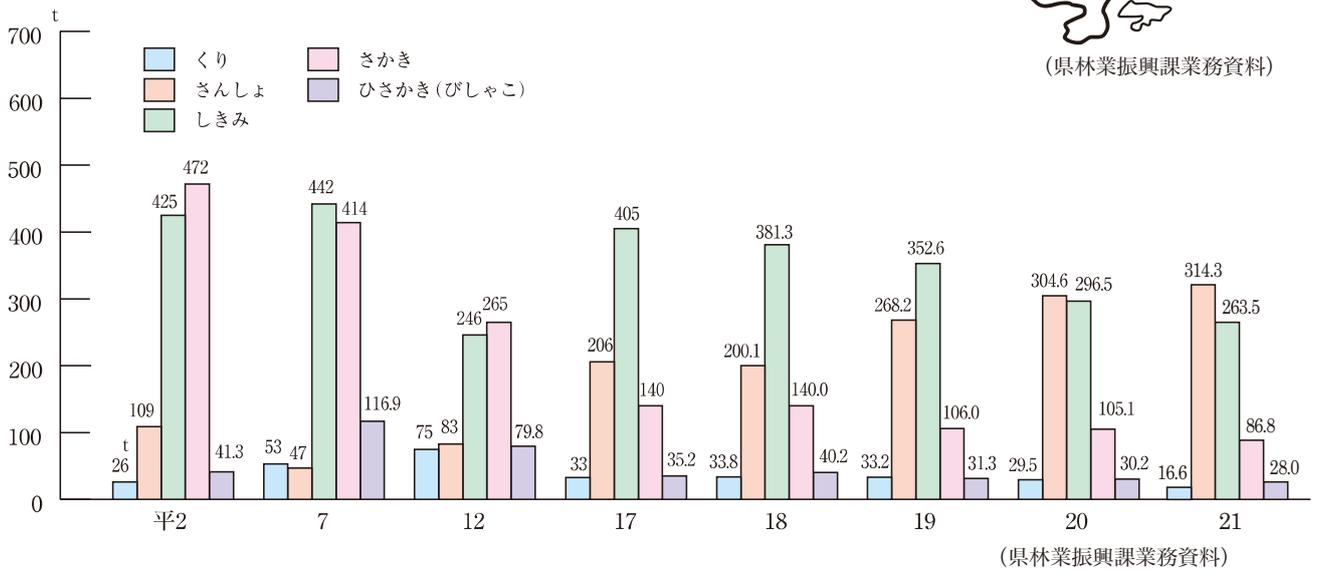


山村での主収入であった林業が低迷する中、副収入源であった特用林産物の収入に占める割合が増加してきた。

郡別・その他特用林産物生産量（平21）



その他の特用林産物生産量の推移



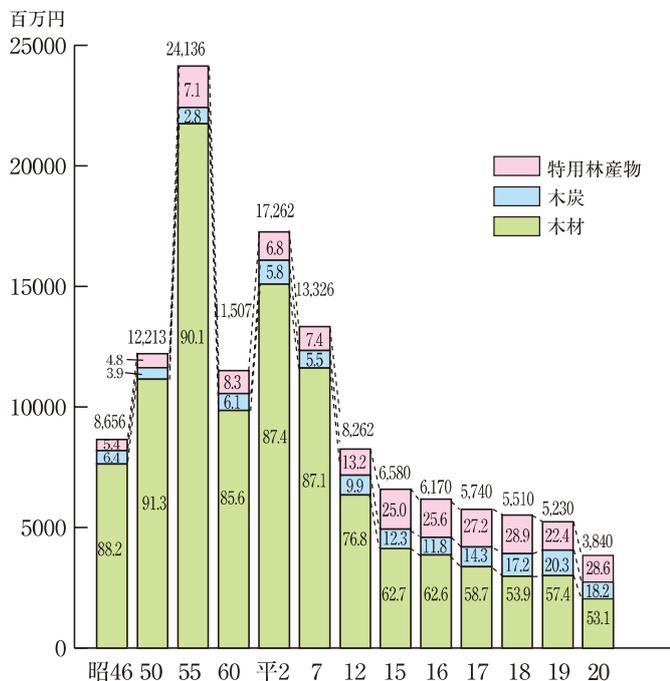
特 用 林 産 物 生 産 量

〔平20〕 (t)	全 国	和 歌 山 県		1 位	2 位	3 位	
	実 数	実 数	順 位	シェア(%)	県名	県名	県名
乾しいたけ	3,867.3	6.5	33	0.2	大 分	宮 崎	熊 本
生しいたけ	70,341.9	1,055.2	21	1.5	徳 島	群 馬	北 海 道
白 炭	3,516	1,692	1	48.1	和歌山	宮 崎	高 知
黒 炭	12,324	22	39	0.2	岩 手	北 海 道	福 島

4) 林業所得と林業産出額

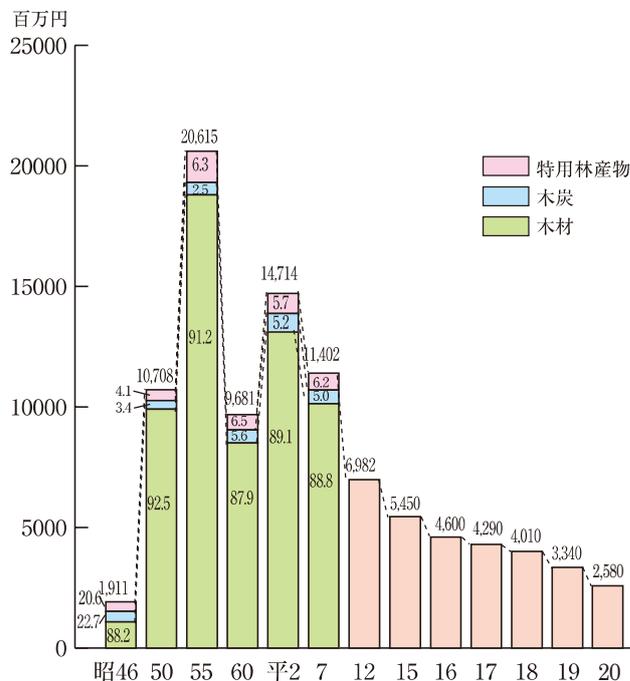
素材価格がピークであった昭和55年を契機に年々減少してきている。

林業産出額の推移



(生産林業所得統計報告書)

生産林業所得額の推移



(生産林業所得統計報告書)

※H10から内訳の計上がされていない

※枠内の数字はパーセントを表す

生産額

〔平20〕 (千万円)		全国	和歌山県		1位	2位	3位	
		実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
林業	総計	44,487	384	30	0.9	北海道	長野	新潟
産出額	木材生産	21,330	204	27	1.0	北海道	宮崎	岩手
生産林業所得	総計	24,161	258	29	1.1	長野	北海道	宮崎